

リハビリテーション栄養学会診療ガイドライン2018年版

リハビリテーション栄養学会診療ガイドラインについて

対象と目的

多くの医療、介護の現場で栄養サポートチーム (NST) が整備され、多職種による栄養療法の介入が多くの患者、療養者に福音をもたらしたが、同時に栄養療法単独の限界も明らかになってきた。一方、リハビリテーションの世界でも栄養療法の下支えのない介入の問題点が提起され、リハビリテーションと栄養療法の融合の必要性が唱えられるようになった。この機運は「リハビリテーション栄養 (以下リハ栄養)」という概念を生み出し、学術的研究が各地で行われるようになった。本誌は「脳血管疾患」、「大腿骨頸部骨折」、「がん」、「急性疾患」の4疾患でのリハ栄養に関する知見を診療ガイドラインとしてまとめた。本診療ガイドラインは多くの医療、介護の現場で治療、療養に携わる医師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ヘルパー、臨床心理士、介護支援専門員、臨床検査技師、社会福祉士、介護福祉士といった多職種の方の利用と、対象は患者、療養者はもちろん、広く地域の方に適応されることを想定している。医療、介護の現場での指針として利用していただくだけでなく、さらに現在の研究の現状と今後の方向性を示唆する一助になればと願っている。

利害関係者の参加

本診療ガイドラインは日本リハビリテーション栄養学会のメンバーが中心となり編纂された。メンバーは医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師などの多職種により構成され、外部査読委員として日本理学療法士学会：栄養・嚥下理学療法部門、日本サルコペニア・フレイル学会、日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会、診療ガイドラインの作成に関する専門家の外部査読に従い、修正した〔外部査読の詳細は学会ホームページ (<https://sites.google.com/site/jsrhntr/riha-rong-yanggaidorain> ※QRコード) を参照されたい〕。また、患者家族の代表の方もパネル会議に参加していただき、受益者の視点も盛り込んだ。

学会ホームページ QRコード



編集の独立性

本診療ガイドラインは日本リハビリテーション栄養学会より資金提供を受け作成されたが、資金提供者より内容に影響する指導等は受けていないこと、各委員の利益相反も明記した。

診療ガイドライン作成組織

◆統括委員会 (利益相反委員会)

藤本篤士 (委員長)	溪仁会札幌西円山病院	歯科医師
大村健二	上尾中央総合病院	消化器外科医
吉田貞夫	ちゅうざん会 ちゅうざん病院	内科医/外科医
若林秀隆	横浜市立大学附属市民総合医療センター	リハビリテーション科医

◆診療ガイドライン作成委員

荒金英樹 (委員長)	愛生会山科病院	消化器外科医
藤原 大	公益財団法人宮城厚生協会坂総合病院	リハビリテーション科医
西岡心大	一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院	管理栄養士
森 隆志	脳神経疾患研究所附属総合南東北病院	言語聴覚士
金久弥生	明海大学保健医療学部口腔保健学科準備室	教授/歯科衛生士
飯田有輝	JA愛知厚生連海南病院	理学療法士
東 敬一朗	医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院	薬剤師
吉村由梨	医療法人社団刀圭会協立病院診療技術部栄養課	管理栄養士
佐藤千秋	昭和大学藤が丘病院	臨床検査技師
豊田実和	リハビリ訪問看護ステーションハピネスケア	看護師
田中 舞	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	作業療法士
石井良昌	海老名総合病院	歯科口腔外科医
小坂鎮太郎	練馬光が丘病院	総合診療医

◆システマティックレビューチーム

百崎 良 (委員長)	帝京大学医学部附属溝口病院	リハビリテーション科医
前田圭介	愛知医科大学病院 緩和ケアセンター/栄養治療支援センター	医師
社本 博	福島県立医科大学/南相馬市立総合病院	脳神経外科医
園井みか	岡山大学病院周術期管理センター	管理栄養士
中村直人	公立陶生病院	薬剤師
宮崎慎二郎	KKR高松病院リハビリテーションセンター	理学療法士
高橋浩平	田村外科病院	理学療法士
黄 啓徳	信和会 京都民医連第二中央病院	理学療法士
堺 琴美	平成博愛会 世田谷記念病院	言語聴覚士
木下翔司	雄心会青森新都市病院	リハビリテーション科医
坪井麻里佳	総合東京病院	リハビリテーション科医
福井遼太	東京慈恵会医科大学附属 第三病院	リハビリテーション科医
田中 優	奈良県立医科大学	麻酔科医
鈴木孝明	奈良県立医科大学附属図書館	司書

◆患者家族代表

大島娃子 横浜市

◆診療ガイドライン作成協力委員

南郷栄秀	東京北医療センター	総合診療医
湯浅秀道	独立行政法人国立病院機構 豊橋医療センター	歯科口腔外科医

◆外部評価委員

吉田 剛	高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科 日本理学療法士学会栄養・嚥下理学療法部門	理学療法士
------	--	-------

山田 実	筑波大学大学院人間総合科学研究科 日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会	理学療法士
吉村芳弘	熊本リハビリテーション病院 日本サルコペニア・フレイル学会	リハビリテーション科医
高垣伸匡	千春会病院	消化器内科医

◆診療ガイドライン事務局

熊谷 直子	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター	管理栄養士
-------	------------------	-------

作成委員の利益相反

診療ガイドライン作成組織の編成前に、候補者から経済的COI、学術的COIの自己申告を診療ガイドライン統括委員会に提出してもらい、診療ガイドライン作成メンバー等の選定および診療ガイドライン作成過程における役割分担・役割範囲を決定した。経済的COIを有するメンバーを責任者とせず、必要に応じて経済的COI・学術的COIを有するメンバーはパネル会議における投票権を持たない。などの役割制限を施した。

Minds診療ガイドライン作成の手引き¹⁾に従って(申告対象は2016年～2018年における研究費等について100万円以上、講演料等について50万円以上のもの)、開示基準に該当する場合は個人名と企業名を明記することとした。またこれに各CQに関連する学術活動である学術的COIもあわせた。

◆開示基準に該当する経済的COI申請のあった者 3名

- ・企業や営利を目的とした企業や団体より、会議の出席(発表)に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当(講演料など)
株式会社クリニコ、ネスレ日本株式会社、大塚製薬工場株式会社
- ・企業などが提供する寄付講座に所属
株式会社 恒和薬品〔郡山市〕、株式会社 東芝〔京都〕

◆学術的COI申請のあった者 17名

※本診療ガイドラインに絡む論文の執筆のあった者 7名

※これまでに携わった診療ガイドライン 11名

- ・日本緩和医療学会 終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン(2013年版)
- ・厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)介護保険施設における利用者の口腔・栄養管理の充実に関する調査研究 研究班 要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン
- ・日本集中治療医学会 集中治療室における早期リハビリテーション「早期離床やベッドサイドからの積極的運動に関する根拠に基づくエキスパートコンセンサス」
- ・日本心不全学会 心不全患者における栄養評価・管理に関するステートメント
- ・日本有病者歯科医療学会
科学的根拠に基づく抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン(2015年版)
- ・日本サルコペニア・フレイル学会、日本老年医学会、国立長寿医療研究センター
サルコペニア診療ガイドライン2017年版
- ・日本腎臓リハビリテーション学会 腎臓リハビリテーションガイドライン

- ・日本病院薬剤師会 注射薬無菌調製ガイドライン
- ・日本病院薬剤師会 抗がん薬無菌調製ガイドライン
- ・日本顎関節学会 顎関節症初期治療のための診療ガイドライン
- ・日本口腔外科学会 口腔顎顔面外傷診療ガイドライン2015年改訂版
口腔癌診療ガイドライン2018(仮)
- ・日本集中治療学会・呼吸療法学会 ARDSガイドライン2016
- ・厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業). 難治性血管炎に関する調査研究班, 難治性腎疾患に関する調査研究班, びまん性肺疾患に関する調査研究班
ANCA関連血管炎診療ガイドライン2017
- ・日本神経学会 てんかん診療ガイドライン2018
- ・日本神経学会 パーキンソン病診療ガイドライン2018
- ・日本緩和医療学会 がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン

■本診療ガイドラインは5年をめどに更新する予定である

■文献

- 1) 福井次矢, 山口直人監修. Minds診療ガイドライン作成の手引き2014. 医学書院, 2014